

令和元年度 第1回 蕨市立図書館協議会 会議録

開催日時 令和元年5月19日(日) 午前10時から午後0時20分まで
開催場所 蕨市立図書館 3階 会議室
議題 (1) 蕨駅西口再開発における図書館整備に関するアンケートの実施の結果について
(2) 第2次蕨市子ども読書活動推進計画に係るパブリック・コメントの結果について
(3) 蕨駅西口新図書館ワークショップの開催について
(4) その他

公開非公開の別 公開

出席者氏名 <出席委員>

町田 敏子委員、椿 智絵委員、田中 京子委員、岡本 和子委員、
蓮沼 昌代委員、近江 睦代委員、荻原 由美子委員、

<事務局：図書館職員>

佐藤館長、藤橋管理係長、寺島主任主事、小河原主事

会議経過

管理係長から開会し、館長あいさつ、会長あいさつ、資料確認の後、議題に入る。

(1) 蕨駅西口再開発における図書館整備に関するアンケートの実施の結果について

管理係長が議題1を説明し、質疑応答に入る。

委員：これだけの膨大な資料を出して、アンケートを実施し、その中でたくさんの意見が出たかと思うが、図書館としてはこういう意見が多かった等、まとめたうえでの感想は。

事務局：まず、問7の希望サービスで、一般書の充実という意見が最も多かった。図書館の基本的な機能を充実してほしいという意見が一番多かった。後は、駅前で、新しい図書館だと、Wi-Fiの提供や、飲食のできるスペースや、開館時間の延長が求められていると思った。自由意見の中では、職員に対するお叱りの意見や、逆にお褒めの言葉もあった。後は、パソコンや電卓が使用できるスペースの確保や、開館時間の延長や月曜日が開館していないという意見が多いのが気になった。

近隣市では既にWi-Fiの導入や、開館時間が長いところが多い。現在は、10時から18時までの開館だが、仕事をしている人が図書館に行きづらいというのが浮き彫りになった。後は、カフェ機能を併設してほしいという意見もあり、現在はペットボトル等ふた付きの容器のみ持参可能だが、それ以外は認めていない。

委員：新聞を読むのにガチャガチャうるさいという意見があった。新聞が配架している所で本を読んでいたが、確かにガチャガチャと音を立てていた。そういった意見があったことから確かにそうだなと思った。私はよく戸田中央にある新しい施設に行っているが、新聞を読むスペースがあり、そこでは座って新聞を読むことができ、そういうガチャガチャとめくる音は一切ない。こういう音のことを気づく人もいるなど改めて思った。何人も新聞のめくる音がすると確かにうるさい。

委員：アンケートを作成し、短い期間でこれだけ作ったのは、とても大変だったと思うが、何人に調査をして、アンケートの回答率は何パーセントで、どういう抽出をしたというのが本来最初

に掲載するべきだと思う。それから 1,000 人に配布して、回答が 467 人で、回答率が 50 パーセント以下しか回答がなかったのは少なかったのではないか。通常このくらいの回答率なのか。

事務局：市役所で実施しているアンケートは、市民意識調査等があるが、30 パーセントくらいになっており、もっと回答率が低い。政策企画室からは 50 パーセントくらいの回答率ですごく高かったこと、新図書館で関心があるということ話を話していた。

委員：1,000 人にアンケートをし、回答をもらい、この結果はどこかに載せないのか。放りっぱなしだと市民はわからない。回答率は何パーセントあって等、全体的に説明してもらったが、図書館や蕨市側から、この結果をどのように考えているか考察がない。アンケートの回答率は 50 パーセントに達していなかったが、他のアンケートに比べたら回答率が高く、関心があったというような考察が必要だと思った。それから、全体の意見について、ここまで作ったのは大変だと思うが、問 7 の具体的な意見が記載されており、種類ごとに並べ替えを行い、施設のことなのか、本のことなのかまとめてほしい。

事務局：そうしたことも考えたが、時間がなかった。

委員：Excel であれば、一行ごとに分類を決めて、ソートすればすぐに出すことができる。

事務局：それは断念した。締め切り後もアンケートが届いた。自由意見のその他の意見を記入することで精いっぱいだった。そうしたこともあり、委員への発送が遅くなってしまった。

委員：作成は大変だったと思う。5 月に本当にできるのかと思った。今後検討していくことは、自由意見に書いていることが具体的であり、書いた人もこれが反映されたり、こういう風に取り組んでいることがわかったりすると関心が出てくると思う。ここで終わらずに、これを生かしてまとめていったほうが良いのではないか。そうすることによって、図書館や、教育委員会もこういうのがあると具体的にやっていこうと生かしていくことができると思う。

事務局：公表については正直考えていない。というのもこのアンケートは、新図書館の移転にあたり、意見をこちらで把握するためのもので、今後の方針で決めた後、資料の基礎となる。アンケートの結果については公表してはいけないものではない。公表するか検討して、この流れを生かしていきたい。後、自由意見のところについては、新しい図書館としての意見もそうだが、今の図書館の運営に関する意見もたくさんあった。職員全員にアンケートに出ている意見を見てもらいたいと思う。すごく良い意見や、お叱りの意見があり、こうしたほうが良いという意見がたくさんあることから、職員に見てもらい、職員で対応できる場所はないか職員間で考えていきたい。

委員：アンケートを送られてきたが、取らされたような気がする。

事務局：今のところは、計画の段階であり、一方的に意見をもらう。後は、この後話をするが、ワークショップで、そういった要望をいただく。基本設計になると、ある程度専門的知識を持っている政策企画室やまちづくり推進室で詰めることになる。現段階であまり公表ということよりは、アンケートに出た意見をしっかり反映していくことが重要だと考えている。ただ、公表してはならないということはない。

委員：みんなの図書館であることから、公表し、どういう計画があり、どういうアクションを取っていくのか、市の計画のスケジュールもあると思うが、できるだけオープンにし、この段階に来ているというものがないと、市民の参画もできないし、何のためのアンケートなのかと思ってしまう。せっかくこれだけ、意見を抽出することができたのだから、そのままで終わってし

まうのは不信感がある。

事務局：図書館としては、この結果を受け止めて、反映させていくことだと考えている。

委員：広報に対して意見があり、いつも蕨市の広報がわからない。先ほどもアンケートの回答率が半分でいいほうだということだが、周知をしていない。何回もそうしたコメントを出したが、結局アンケートを回答している人に結果が伝わらないのはおかしい。アンケートの作成は大変だったと思うが、一見して読む気にはならないと思った。資料が届いたのが遅く全部見ていないが、カテゴリー別に分けてもらわないと、何がどう書いてあるのか見る気にならない。もし、公表するのであれば、カテゴリー別にしてもらわないと見ようとは思わない。アンケートを出しても結果的に、何が、どういう形で反映されているかわからない。せっかく出た意見がどう変わって、どのように取り入れているかわからない。そうすると、アンケートを書かなくてもいいのではないかと感じてしまう。こういうところがあるから蕨市はわかりにくいと感じてしまう。職員が把握しているのはもちろんのこと、アンケートを送った人に対してこういう状態であると知らせても良いと思う。それができないのであれば、やはりインターネット上で公表することは絶対に必要だと思う。公表しないのであればアンケートを取る必要がない。

事務局：アンケートはどのような結果になったかを図書館として把握する必要があるため実施した。

委員：そうであれば、やはり結果を公表すべき。

事務局：新図書館として形が決まったら、それを知らせるときにこういうニーズがあって、こういう機能があると公表する。

委員：それでは遅いのではないか。

事務局：ニーズを反映して、こうなっていると説明するが、通常は検討中のことを随時お知らせするというのではなく、最後に知らせることになっている。検討中にその時々情報を出していくと、変わっていくことがある。それで混乱を与えてしまうことがある。皆の意見を聞き、審議を重ねていき、その結果、こうなると公表するのが1番良い。

委員：すぐにはできないかもしれないが、公表してもらいたい。

事務局：ホームページ上に掲載しようと考えている。

委員：今回のアンケートは新図書館のアンケートだと思うが、その割には、現在の図書館に対する不満がとても多いような気がする。新図書館は8年後くらいになると思うが、現在の苦情が多い。今回のアンケートには自由意見としてざっくりとしてしまったために回答者が、言いたいことをアンケートに記入してしまったように感じる。

委員：自由意見に非常に多くの意見があるが、それを集約し、振り分けて、今回の結果としてホームページに掲載する。前の委員も話したように、新図書館に反映するのはわかるが、そこまで待てない。結果はとても大事だと思う。アンケートを実施したら結果をすぐに出してもらわないと、その後で、何かにつなげるというのはいいと思うが、まずは結果を載せてもらいたい。

事務局：おそらく、7ページまでは掲載する。後ろのページについては精査するのに非常に多くの時間がかかってしまう。どのように載せるかについては事務局で検討したい。

委員：まとまったら、まとめたものを載せてもらいたい。

委員：こういう意見が多かったといったような形で掲載してほしい。

委員：新図書館と現状の図書館ということをお話したと思うが、現状の図書館で改善できるところはあるか。

事務局：職員にはロングミーティングの時に議論ができるよう、よく読みこんでもらいたいと思っている。

委員：よく読みこんでもらい、改善してほしい。

委員：公開はどうするつもりか。

事務局：一般向けには図書館協議会委員のものと別のものを公開しようと考えている。

委員：協議会委員は7人しかいないがどうなのか。

委員：今回出席している協議会のメンバーはわかると思うが、公開する時に、アンケートで、どうい質問をしたかも合わせて掲載してほしい。

(2) 第2次蕨市子ども読書活動推進計画に係るパブリック・コメントの結果について

管理係長が議題2を説明し、質疑応答に入る。

委員：パブリック・コメントの結果について議題に上がっているが、前回の会議で子ども読書活動推進計画について、図書館でやることは図書館でやる旨の話をした。後、ブックスタートでは、それぞれの部署がバラバラにやっていると意見があった。今回、議題に上がったパブリック・コメントの結果について、図書館のところは図書館ができるのかということや、連携をもっとした方がいいという意見があるが、何をどうしたいのかよくわからない。パブリック・コメントの結果を出して、今後、(案)がなくなると思うが、中身を見てこれでいいとはいえないと思う。

委員：パブリック・コメントを書いたが、前回の4年生が対象外になったのはなぜかとの問いに、市の考え方として中学年の3年生と高学年である5年生の2学年を対象といたしましたとしているが、これも計画に盛り込まれるのか。現在、蕨市子ども読書活動推進計画(案)になっているが、訂正するのかどうか。

事務局：計画には盛り込まれない。

委員：盛り込まれないとしたら、このような意見というのは無駄だったのか。この計画を見ると、何故4年生が今回の計画で対象外になったのか、見る人がみればわかると思うが、一般の人は計画(案)を見た時に、何故なのかと思うだろう。アウトメディアの啓発の項目で具体策がわからないと指摘したのも、一般の人はわからないだろうと思ったから。市の考え方が掲載されているが、推薦図書の見直しというところも、どれくらいのスパンで行うのかが計画には見当たらなかったため指摘をした。子ども読書活動推進計画が5か年計画だと思うが、5か年と長いものであるから、1・2年で変わるものではない。そのため、より慎重にしてもらいたかった。意見が計画に全く盛り込まれないとなるとどう考えればいいのか。

事務局：今回、4年生が対象外にしているということと、アウトメディアについては、図書館だけで展開しているのではなく、教育委員会全体で取り決めて行っている。その中で、図書館は公民館や児童館とも連動するというのであれば、何かあるかもしれないが、現時点で具体的なものは思いついていない。

委員：計画を出しているのが、蕨市と蕨市教育委員会になっているから、図書館は教育委員会と関わっているはず。だとしたら、現時点で、教育委員会でもアウトメディア宣言に基づいて、こんなことをやっているといった具体的な活動が入ってもよいのではないか。

委員：アウトメディア推進大会があって、年1回講演会を行っている。

委員：テレビ等を控えるような活動をしていると思うが、活動の具体的なものを出してもらいたい。

事務局：子ども読書の日を設けていて、これが今の図書館としてのアウトメディアの事業であるが、図書館としてこれ以外にあれば掲載していきたい。

委員：連携の中でということ、教育委員会や、アウトメディア推進委員会がこんなことをやっているという文章はないのか。

委員：学校は月1回、開催しているが、こういうことは学校に行っている子どもを持つ親はわかるが、そうではない親はわからない。そういうことを先の委員が話していたように具体的なものをあげるのには必要ではないか。前の5年間も具体的ではなく、漠然としている。何がどうなっているのかわからなかった。それで5年間は終わってしまった。具体的に何をしようという具体案がない。部署が違うから連携がとれないというのではなくて、蕨市でやっていることなのだから連携を取ってもらって、もう少し具体的に、こういう課題があると示し、どうしようかといった具体案や、課題を取りまとめて結果がほしいと思うが、そういったことが漠然としている。全部を変えるのは無理だと思うが、先の委員が話したように、子どもを持つ親ではない人が見ても、学校や団体ではこんなことをやっているというようなことを文章にすると、何となく見えると思うが、そうしたことをしないと何をしているかわからない。

委員：もし、計画が先ほども話したように5か年計画で長いスパンのため、その間、何が起こるかかわからないということも含めて、ざっくりとぼかして、この計画が法律のようなものであるとしたら、具体的なものはその都度、例えば1年目にはこれをやった、2年目はこの計画に基づきこんなことをやったといったことをどんどん発信していかないといけない。そうしないと、計画を作ったのはいいが、何もわからなくなると思う。

事務局：アウトメディアに対する事業として、子ども読書の日には、中学生以下については通常の2倍の本の貸出をしている。

委員：アウトメディア推進委員会に長く関わっているが、図書館が関わっているのは初めて知った。

委員：アウトメディア推進委員会に図書館は参加しているのか。

事務局：参加していない。

委員：学校関係者は参加しているが、図書館は参加していないのか。

委員：町連の会長や団体の長は参加しているが、図書館は参加したことがない。

委員：そもそも論になってしまうが、今回の計画の中に、具体的に盛り込ませることは難しいのであれば、各年度で、今年度はこれに基づいて、これをやった。結果としてこうなったということ、必ず結果は出るわけではないものの、こんな風に努力をしていると発信してほしい。

事務局：ホームページで子ども読書活動推進計画のページがあり、見てもらいたい。

委員：見やすいように作成してほしい。

委員：ホームページが見にくい。環境浄化委員も推薦図書を選定をやっているが、そこでも図書館の名前が出ないし、図書館はこんなものがあるといった紹介も全然ない。もう少し図書館をアピールして、図書館が発信しているとアピールをしてもよいのではないか。市は分業みたいなもので、他のところは知らないということがある。そういったことを感じるため、もう少し連携を取ってほしい。

委員：アウトメディアというとテレビを見ない、家族と過ごす感覚があったが、その日は本を読む等にして、その前の日に図書室で本を借りるようなことをやってもらいたい。そうすると、アウトメディア、イコール読書のようになり、具体的になると思う。管轄が違うからではなくて、蕨市でやっているのだから、もう少し、学校側をお願いすることで、アウトメディア、イコール読書とするような活動をするようなことがあってもいいのではないか。

委員：前回の会議の中でもこういった話が出たと思うが、年度初めのすぐに行われるため、バタバタしているときに終わってしまう。

委員：子ども読書活動推進計画を出すことになるから、図書支援員が研修する時に、研修内容にこの計画を使ってもらいたいと思っている。図書館からこれを持って、出かけていき、作ったということで一緒に協力して、読書推進にということで広めてもらいたい。そうすると学校教育課と連携できると思う。子ども読書活動推進計画を作り、ホームページに掲載したとしても見る人が見ても全く分からないというのは避けたい。

事務局：実際この後、推薦図書リストを作り直す作業が5年間の計画の中にあり、図書館と連携してやっていかなければならないということで協力の周知や、説明をさせてもらう場があれば説明していきたい。

委員：昨年度、協議会の中で、学校がこれを知らないということを知らせたら、5月の校長会があり、館長がこの話をしてくれた。そういった意味では、ここで出した意見を受け止め、手直しをしてもらい感謝している。前回の第1次の計画については、こういった話が学校に伝わっておらず、校長会で校長は初めて話を受けたという反応だった。今回は資料も全部配ってもらって、校長に話をしてもらったことに感謝する。定例教育委員会を経てこの案が削れると思う。校長会の時にも意見を言ったが、前回の第1次計画のところでもリストを学校と一緒に作るという文言が入っていたが、何年たってもなかなか実行されなかった。事務局のメンバーが変更されているから説明するが、何故、私が校長会で説明したかということ、前回は学校教育課から、図書リストに対する各学校の意見を学校教育課から通して聞いていた。それは、恐らく図書館が学校教育課を通して降ろしてきたと思うが、リストについては、図書館流通の中で業者が、いくつか提示をしているが、その数はすごく少なく、低・中・高学年用にこのリストの中から10冊ずつあげるようにと依頼の資料がついているが、実際には10冊くらいしかデータがない。学校の中で検討する余裕もなく支援員が急いで準備して、回答したのがこういった形になって、正直これに学校の意見が十分に反映しているかというところ各学校によりけりだと思うが、わずか2週間の回答期間で、時間もない、資料もないという経緯があった。今回もう1回作る作業をどういうスケジュールで誰が主導して、誰がどういう作業をするかを計画を立てて周知をしないと同じようになつたら怖いと思って発言をした。

事務局：今後のスケジュールについては計画に示していなかった。

事務局：前回のリストは、リストができあがったところで私が児童書担当になったため、こういった経緯でそのリストができたかは把握をしていないが、アンケートは支援員や学校の先生にお願いしたが、もともとの図書リストの信ぴょう性がという意見があり、今回はできれば、先生方に本を見てもらったうえで、選んでもらうという流れを考えている。児童担当になって2年目だが、正直、何とも言えないところもあるが、5年の間に1回新しいリストを作ろうと考えている。それに対して、今出ているリストだと、もう少し古典文学等、ある程度評価が定まった本を読んでほしいと希望がある。リストを見ていると新しい本に偏りすぎてしまっている所が今回のリストを見て感じる。今回のリストにある本もちろん少し残す予定ではあるが、間に合うとは言い切れないが、準備を進めている。2学期からは中学校は別であるが、学期ごとに先生方に図書館からこの本を次回の計画にどうかという依頼文を送る。支援員と司書担当の先生に貸出用ではなくて、先生方だけに見てもらう本を学期ごとの団体貸出の本の中に入れる予定になっており、令和3年度にもう1回新しいリストを作り直すことができると考えている。ただ、図書館としても予算が限られており、買った本のうち、戻ってきた本については他の子どもたちに貸出をするが、たくさん買うのはもったいないから、その間に先生方に回覧していく関係があり、およそ2年の間に回せるような形で、今回買った本を回覧するようにしたい。他に希望があれば、全校に回すのは難しいが、先生方が図書館で本を借りて、先生方の要望があれば用意することは可能だと思うが、基本的にはまだ明確に定まっているわけではないが、おすすめ推奨図書リストを作り直している。業者からもらったリストを渡すというよりは、ある程度評価の定まった本を児童書関係の本から選び、おすすめしたうえで、今年の夏以降から学校に配り、2年後に備えようと考えている。

事務局：その流れを文書で示し、学校に案内させてもらい、計画に沿ってお互い協力していければと考えている。

委員：学校教育課が招集する図書主任が集まる図書主任会が年に1~2回くらいあり、読書感想文を選ぶ作業みたいなものだが、例えばそこで話すことはどうだろうか。

事務局：日程等は学校教育課に確認をする。

委員：本の予算を握っているのは教育総務課になる。

事務局：学校図書館の本を整備するところは教育総務課になると思うが、後ほど確認したい。日程を提示できるようにしていきたい。

委員：令和3年度からの目標ということか。

事務局：そのようになる。2年間くらいかけて先生に本を読んでもらう。学期でローテーションしていき、必ず2年で全部の学校に回るようにしていくと考えている。

委員：子ども読書の日に実施される倍貸しの広報についてはどんな風に行っているか。

事務局：館内には掲示をしており、ホームページについても掲載している。

委員：これは何年も前から実施しているのか。

事務局：少なくとも4年前からは実施している。

委員：図書館にしょっちゅう行っている子以外は先生も知らないと思う。

委員：今出た意見も参考にしてもらえるか。

事務局：この5年間で内容について精査をして、次の計画の時には、委員から出た意見を反映することができるようしていきたい。

委員：数日で6月になってしまう。案ではなく決定になる。

委員：15ページにある図書館における子ども読書活動の推進とあり、気になるのは取組がこれだけしか書いていない。課題と、最終的に図書館の目標値が掲載しており、このところはよくわからないが、図書館で子ども読書推進として色々関わっていくにあたって子ども読書月間の時には、色々しており、連携もこれからしていくとは思いますが、この状態をどこが行い、こういう説明をどこが行うといった具体的に何をしていくのかを図書館として見える化して、図書館はこんな取組をしたという具体的な計画を立てていかないと、今後何をしていくのかわかりづらい。貸出冊数だけ目標になっているが、前回の協議会の時にも話し合ったが、何をやるのかという計画があつて、具体的に肉付けしていかないと、また同じようになってしまう。今回提示している資料はいいとは思いますが、協議会に出てきたときに、こういうふうになったと具体的なものを示してもらえれば、例えばもっとこんな風に連携してやってほしいという意見も出てくると思う。全体を見えるようにしてもらえるとありがたい。

事務局：ホームページ等で随時更新があれば載せていく。こういう取組があると市民に示すことができると考えている。

委員：計画について図書館が全て担っているわけではないと思う。教育委員会が策定するのだから、本来であれば教育委員会が他の部署とすべて連携していく必要がある。その上で、図書館はここここが連携できるといった図ができればいいが、それがなかなか進まないのであれば、図書館としてこれをやっていくということはある程度明確にしておけば、明確になっていないところが一目でわかる。図書館のところだけでもやらなければいけないことをやって、他の部署と連携するところは連携していく。ブックスタートの図書が図書館で所管しているわけではないが、小さいお子さん用の読書会を開くという話は協議会に出ていて、そうするとどういう連携をしていくのか見つかるのではないか。今はもぐらたたき状態で、あれが出たからこれをやる、あれができないからこれができない、そんな印象を受ける。

事務局：場当たり的にはなっているが、体系的にできるように検討していきたい。

(3) 蕨駅西口新図書館ワークショップの開催について

管理係長が議題3を説明し、質疑応答に入る。

委員：ワークショップの開催についてはあいまいで、よくわからないところがあるが、まずはワークショップの開催に関して、どういうところからどういう要請でワークショップを開催することになったか。広報にはお知らせみたいな形で書いてあったが、そのあたりもよく分かっていなかった。ワークショップの開催にあたり、どういったところから話が出てきたか示してほしい。

事務局：市長から、市民の意見を伺い、反映した施設にしなければならないと言われてきた。それで、アンケートを今年3月に企画したが、アンケートだけでは足りないとのことだった。せっかく市の公共施設を作る機会なのだから、市民参加をしたほうが良いのではないかとされた。政

策企画室に意見を伺ったところ、最終的にはワークショップだろうと意見をもらい、開催することになった。ワークショップの開催要項にあるように希望の機能や、ゾーニング等、市民と一緒に考えていき、市民の意見を取り入れたものにしていきたい。

委員: 広報にはそういった意図が見えない。協議会からは4名しか参加枠がない。そういった中で、市民の意見を取り入れていくという感じがしない。なんだかよくわからないワークショップという印象を受ける。広報は漠然としているものばかりで、何をやりたいのか明確ではない。ワークショップの開催は、一緒に作ることを示すと逆に、市民の参入に困ることがあるのかと考えてしまう。そういったものがあるのか。市民参加と言いながら、市民に参加してもらって、市民に余計なことを言われるのが問題だから、そういう風に公言しないのかという印象を受ける。開催目的を明確にすればもっと人が集まるのではないと思うのと、同時にホームページに掲載するのがいつも遅い。公民館や図書館は特定の人しか行かない。図書館に普段行かない人が目につくようなところに掲示してほしい。広報も皆が見るとは限らない。町会にお願いして、町会の掲示板に貼ってもいいのではないか。図書館には行かないけれど、公園に行ったらまた見つけることも考えられるし、違う層の人達も引っ張ることができると思う。2か月に1回、正面のディスプレイのカレンダーを更新しているが、それがいつも見にくいし、もったいない。なんとかできないかとずっと言ってきたが、どうにもしてもらえなかった。必要があれば協力したい。インパクトがある看板が作ってほしいという要望があれば、喜んでほしい。もうちょっと何とかしてほしい。とにかくわかりにくい。

事務局: 広報は課題となっている。私も含め全職員に広報について周知させたい。

委員: 今、まちづくりや、まちの安全対策等を考えるときに、様々な地域でワークショップを開催しているようだ。意見を吸い上げる市民参加型で、作っていくというのを聞いたことがある。ジャンルによってはワークショップをリードする民間の団体があると聞いていて、そういうワークショップが図書館で開催するのは画期的なことだと思う。話を伺ったときに、個人的には参加したいと思ったが、蕨市民ではないし、8年後は蕨との縁も切れているだろうと思い、地域の方や、図書館を実際に使う方に譲った方がいいと思い、参加するという返事はしなかった。ワークショップにおいて協議会委員は傍聴や見学というのはあるだろうか。口は出さないが、皆がやっているのを見ることが出来るチャンスではないかと思う。協議会委員は、24名以外のオブザーバーとして呼びかけても良いのではないかと思った。そもそもの話になってしまうが、8年後に再開発計画で新図書館ができるとすると、この8年のスケジュールがどうなっているのか。ワークショップは今年度だけのものなのか、また、新しい図書館の構想等はいつぐらいまでに作って、どれくらいアイデアを出したり、まとめたりする期間が残っているのかなと思った。

事務局: ワorkshopを傍聴できるような形にするかどうか規定等はないと思うが、少し気になっているのが、参加する人が自由にグループで意見を出す時に、委縮してしまうのではないか。そうであれば、傍聴がないほうが、意見を出しやすいのではないか、ただ、傍聴自体については禁止ではない。また今後の構想のスケジュールについてはこちらもわからない。

委員: スケジュールがわからないのはおかしいと思う。

事務局: スケジュールがわからないのは、再開発組合での施行ということがあり、蕨市は1組合員と

して、3階の1フロアだけが、蕨市の権利を取得することになる。そういったこともあり、今後のスケジュールについてはわからない。

委員：くるるのような旭町公民館としての機能だと考えればよいか。

事務局：1階や2階は商業施設が入る。4階以上はおそらくマンションになることを聞いている。2階に、駅からつながるペデストリアンデッキがあり、そこから新図書館には、1階分階段で登ってもらうことになる。そうしたこと以外については聞いていない。

委員：全体的な構造についてはいいと思うが、中のグランドデザインをしていく段階で、どういうタイミングで、どうやってするのか、計画があるか。また、図書館と他の部署が連携することがあるはずだが、移転するのなら、ここを無くすのか等どうなるのか。

事務局：図書館としては西口に移転することになる。

委員：それは決定事項として確定しているのだろうが、そういったことも知らされていない。ワークショップを開催する際の、ゾーニングの計画というのはどういうことなのか。

事務局：一般書のエリアや、児童書のコーナーをどうするかを考えてもらう。

委員：何も計画が出ていないのにそんなことをワークショップでするのか。

事務局：具体的なゾーニングを市民に考えてもらう。

委員：図書館を作るときのデザイナーはいないのか。必要だと思うが、どういう業者が入るのか。

事務局：業者については、組合設立してからで、まだ決定をしていないためわからないとのこと。逆に何も無い状態だからこそ、自由に意見が言えると思う。決まってしまった後だと意見が言えない。

委員：そうだとすると意見を言っても夢物語で終わってしまうのではないか。

委員：何平米くらいかもわからないのか。

事務局：ある程度は決まっているが、平米数については持っている権利で決まる。

委員：土地そのものの権利は市にあるのか。

事務局：地権者は他にもいる。

委員：蕨の商店街は地権者が他にあり、衰退してしまった。地権者が蕨市でないと心配になる。

委員：今後の計画は見えないということか。この後何をするかも決まっていないのか。

事務局：わからない。事務局としても情報を集めているところである。

委員：こういうことは誰が決めるのか。市長がやれと言ったのではないか。

委員：すごくシビアな話になるが、今、市長選の真っ只中で、現市長の構想で来ていると思うが、選挙の結果次第では突然変わる可能性もありうると思う。

事務局：再開発の中で昨年11月に公共施設部分については、市民課の出先の行政センターで転入転出や住民票業務等ができるようになることと、図書館にしようということが決まった。もし、ガラッと変わって、そこを見直すことになれば、影響は大きいことから、現実的ではない。現在の図書館は築40年経っており、昨年はずぐに潰れないように耐震補強工事を実施した。

委員：川口の駅前にも図書館があると思うが、ああいう感じになるのだろうと想定している。ワン

フロアになり、商業施設が入ったり、公民館が入ったりすると思われる。

事務局：川口の場合、図書館が上階にあり、エレベータがあるが、エレベータ待ちがあり、エスカレーターを何回も利用するのは結構不便かと思う。

委員：川口の駅前図書館にはよく研修で行っており、使いやすい。すごく近いから行っている。

委員：先ほど、ワークショップはいいとなぜ言ったかという、市民が、新図書館について考えて、何らかの形で自分の意見が反映されるという感覚が最後に残るというところに意味がある。そこがいいと思うが、先ほどのアンケートもそうだが、市民に投げかけて、バックがあるから、市民が参画したという意識ができると思うし、特に今回は市内の中学校卒業の高校生を入れているのはすごくいいことだと思う。未来に生きる若者が、8年後にはワークショップに参加して、その意見が反映されることができたという想いが残ってほしい。このワークショップもやった後がすごく大事だと思う。もちろん、色々な意見が出てきて、全部実現されるわけではないし、要望も多様なわけだから、色々出てきた意見のこれは生かされた、これはこういう理由で無理というのはたくさんあっていいと思う。ワークショップに参加した人たちの想いが何らかの形で反映された、あるいは参加した人が、参加したと想う様な形で取りまとめてもらいたいと思う。アンケートには今回小中学生が入っていたが、これは素晴らしいと思う。小学生にも、普段の生活で困っていることがあったら、市に声を出して、市民生活を良くしていくことを教えてほしいということも言われているから、そういうことも含めて、投げかけたら、バックするような双方向で、よかったと思えるようにしてほしい。

委員：質問だが、今回のワークショップはコーディネーターはいるのか。

事務局：いない。

委員：では、自分たちだけでやれというのか。

事務局：そのようになる。

委員：こういう風になったと既成事実を作ってほしい。皆に募集をしたのとなってしまうような印象がある。普通、新しい図書館を立ち上げるときに、コーディネーターを立てている。どういう風に意見を吸い上げていくとか、どういう風にやっていくかはコーディネーターにお願いしてやっているところが多い。自分たちだけで、まして、人口の少ない蕨市の職員だけで、あの大きい事業を自分たちだけでするのは絶対無理。どういう風にやっていくのか、今まで見てきたことが全然反映されないのは困る。また、今回のワークショップでは、協議会委員はオブザーバーでいいのではないかと思った。もっとたくさんの市民に参加してもらい、意見が出たものを協議会にかける。協議会委員はそういった役割でもいいのではないか。

事務局：募集して何人になるかわからないが、もしオブザーバー的な役割ということであれば必要な時に発言してもらおうようにお願いしたい。

委員：市民と話す、意見ばかり言いそうな気がするが、多くの市民に参加してもらいたい。アンケートにはこれだけたくさんの意見が出ており、関心のある人はたくさんいると思う。ワークショップの開催を目に留まっていけないだけではないか。

事務局：貸出をしている人にはチラシを配布している。

委員：ワークショップは2回必ず出ないと駄目なのか。

事務局：1 回だけでは話し合う時間が短いと思い、2 回に分けて開催することにしたので、出ていただきたくことを希望する。

委員：もし、期間内に募集定員に満たなかったら追加で募集をかけてもらいたい。余談だが、アクティブシニアの見本市で公民館に行ったときに、林家たい平の講演会があり、行ってみた。林家たい平の講演会はとても楽しかったが、来ている人がすごく少なく、とても驚いた。なぜこんなに楽しい機会なのと思った。これは講演会開催のことを知らないから人が来なかったのだと思う。

委員：市役所にはワークショップのポスターは貼っていないのか。

事務局：市役所 1 階の市民活動推進室でチラシを置いている。

委員：市役所は色々な人が来るため、市役所や、市民会館等にポスターを貼ってほしい。図書館を利用している人だけに告知しても駄目だと思う。利用していない人も利用してほしいのであれば、図書館に来ている層だけではなく、違う層にもアピールしなければならない。色々な人が来る場所にポスターの掲示をし、申込用紙を置くのがいいと思うが、奥に入ってくる人も少ないから、インパクトが出るようなポスターを入口に貼らないと人は集まらない。先ほども言ったが、私たち協議会委員が参加してもあまり意味がない。このままでは高齢者層が中心になってしまう。そのため、若い人と一緒に新図書館の開発をしてもらうようにしてほしい。成年式では若い人たちをメインにするから、彼らは一生懸命やっている。ワークショップをやりたいと思っている人はいるけれど、自分でいいのかなと思っている人もいるだろうし、自分から発信ができないこともあると思う。ランダムにワークショップに参加しないかとアンケートのように用紙を送るということもありなのかなと思う。お金がかかるものではなく、皆で参加するというのなら、色々な層の意見を聞いた方が、絶対にいいと思う。

委員：蕨市は人集めが本当に大変。音楽のまちづくり委員会も連絡をするのが大変。どんな有名な人を呼んでも、本当に人集めが大変。それが現状。本当に有名な人を呼んだからといって人は来ない。何万人も動員する女性アイドルグループや、若い有名な人が出れば、さいたまスーパーアリーナでも満員になるかもしれないが、普通の人を呼ぶのであれば、人集めが大変。まして、1 人 1,000 円や 2,000 円を徴収することになれば来ない。だから無料になる。少なくともワークショップに関しては来てくれるだけでも良しとしないといけないうらう。

事務局：4 月に事務局であれこれ考えて、ワークショップをやろうという所にこぎつけている。

委員：どういう話になったのか。

事務局：まず、説明会のようなものを考えたが、行政からの一方的なものになってしまうため駄目になった。もう 1 点、大人ばかりでは駄目でこれからの若い人も入れるようにという議論があった。

委員：1 回目はアンケートの説明をするようだが、その時にカテゴリー別で出してほしい。

委員：ワークショップはスライドで説明をする予定はあるか。

事務局：それをやろうと考えている。最初にまず、館内を見てもらって、図書館の概略と、話題になった図書館の説明を担当の職員がする。資料を作ってスライド等できればと考えている。スライドも著作権があり、実際にワークショップで出すとなると、注目を集めている他市の各図書

館に電話等で許可を取る必要があるが、現在その作業をしている。

委員：話題の図書館はどういう図書館なのか。

事務局：担当からは、武蔵野プレイス等と聞いている。また近隣の川口市やさいたま市ではどうかと思っている。ただ、これが全部ではない。

委員：桶川の図書館に行ってきた。ここは駅から直結している。図書館と書店とカフェがワンフロアになっている。以前話題になり、私は知らなかったが、桶川市は蕨市とほとんど人口が同じで、予算は蕨の方が多いか同じくらいとなっている。そのため、見学に行ってきた。

委員：見学は職員も行ったのか。

事務局：昨年度職員で行った。桶川や草加等気になる図書館は分担して行った。

委員：近年民間委託の図書館は問題となっている。民間委託の図書館の場合はカフェが建物の中にある。販売のところと貸出のところが利用者に分かりにくく、棲み分けができていない等色々問題になっている。蕨市は書店がないため、書店と棲み分けということではないが、廊下で区切るような形で同じフロアにあるような、書店があつて、図書館があつて、カフェがあるというのはいかがなものかと思う。さいたま市は階が分かれるが、紀伊国屋が入っている。図書館が入って、書店が入ってという感じだが、今の話だと、ワンフロアの3階しか使えなく、しかも行政センターも作るというから、これはちょっと難しいと思った。いずれにしても桶川市とは人口の規模が同じくらいの市が、こういう形でやっているのかと思い、桶川の図書館を調べてきた。

事務局：桶川はぜひ参考にしたいと思っている。

委員：この近隣だけだと、さいたま市や戸田市といった大きな市しかない。蕨市は蕨市でそれなりの規模なのだから、県内を見回して、同じくらいの規模のところを見てもらうような形で考えてほしいと思っている。今流行りの津軽の図書館に議員が見学に行ったようだが、そういったことはこの図書館には当てはまるのか、参考になるのかと思った。そのため、ある程度絞った形でないと参考にはならないと思っている。

委員：図書館をたくさん見た職員もいると思うが、ただ見るだけではなく、どういう風に立ち上がっていったのか、どういう人たちが応援しているか、デザインも、先ほどコーディネーターの話をしたが、どういう風に作り上げたのか、市民がどのように参画していったのか、それぞれ、特色があり、そういったことをしっかりと聞いてほしい。もちろん見るのもいいが、漠然と見るだけでは駄目で、たくさん話を聞いてほしい。まだ、8年後なのだから、しっかりと話を聞いてもらいたい。

(4) その他

管理係長から前回の議事録の確認、平成30年度の図書館概要の作成、次回の協議会の開催予定の3点の事務連絡をした後、質疑応答に入る。

委員：次回の協議会の時に、報告と予算を一緒にやるということか。

委員：1回目と2回目の間が長い。また、話が戻ってしまうが、3回にしてほしいということで、それが出来ないということだった。いつも思うが、真ん中がない。いつの間にか、次の年の予

算の話になってしまう。事業報告で次の年はどうなるのかと思ってしまう。今回は子ども読書活動推進計画が入ってしまったため、仕方がないが、3回の開催が出来ないのであれば、何らかの形で、年内でも何か資料を送ることはできないのか。令和元年の事業計画のやりたいことを協議会で示してもらえないのか。

事務局：令和元年度については前回の協議会で事業計画が予算という形で出ている。

委員：進捗状況を教えてもらえないだろうか。間が空くと忘れてしまう。忙しいとは思いますが、中間報告がほしい。

事務局：図書館概要については夏前にはできると思う。7月くらいには配布できると思う。

委員：年を明けないようにお願いしたい。

最後に会長代理から閉会あいさつ。